

第3回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和6年10月22日（火）15時15分～16時55分
会 場	平塚市中央図書館 ホール
出席委員	比企委員、渡邊委員、小島委員、鈴木委員、丸島委員、笹尾委員、國正委員 西郷委員、西田委員、飯田委員
欠席委員	宮路委員
事務局	石川社会教育部長、石塚社会教育課長、鳥居中央公民館長、藤田中央図書館 長、熱田館長代理、浜野博物館長、戸塚美術館長、木村課長代理、木村主査、 吉水主事
傍聴者	なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

前回、情報交換もできて、顔が分かった中での会議となる。活発に意見交換できたらと思う。今期の協議テーマは、市内にさまざまな社会教育施設があるが、今回は図書館・博物館・美術館の3つの文化施設を取り上げて、そこにある社会教育資源（資料や人材）を活用すれば、今以上にもっと地域と連携した取り組みができるのではないかとということを協議したいと考えている。公共施設や庁内の連携というよりは市民や地域との連携について、それぞれの館から状況等を伺い、この社会教育委員のメンバーでの意見や考えをまとめていければと考えている。よろしくお願いします。

事務局から夏から秋にかけての部内の事業等の情報提供をお願いしたい。

○事務局

社会教育部内の状況は、社会教育課では、9月末には村井弦斎まつりが開催され、10月からは平塚市文化祭が始まり、現在開催中である。11月には民俗芸能まつりを予定している。公民館では、市民体育レクリエーション地区大会が市内各小学校等で開催されている。11月には公民館フェスティバルが予定されている。スポーツ課では、先週にパラスポーツフェスタがひらつかサン・ライフアリーナを会場にニュースポーツや車いすバスケットボール、ボッチャなどが行なわれた。また、10月から11月にかけて市民総合体育大会が予定されている。図書館では、地区図書館（北・西・南図書館）にて読書週間（10/27～11/9）に合わせて図書館員のおすすめする100冊を展示する事業を実施する。博物館では、秋期特別展として「お家をまわる子育て地蔵」が始まったところである。美術館では、落谷虹児展が開催されているので、是非御鑑賞いただければと思う。また、ひらびあ一つま～れ10年記念展が開催中である。

この中央図書館は、昭和45年に開館した施設で、老朽化に伴い、令和8・9年度に大規模改修工事が予定されている。現在図書館の出入口の向かい側の建物は、博物館の市史編纂担当の事務室と2階は博物館の倉庫となっている。そこには子育て支援センターを移設する予定である。改修後は、図書館のこども室と子育て支援センターが子育てでの連携を図りやすい環境になっていく予定。

2. 議事

(1) 中央図書館の連携事業について

○事務局

図書館では、中央図書館（市直営）、令和4年度から指定管理者制度を導入した地区図書館（北・西・南図書館）の計4館がある。資料の連携事業一覧では、市直営である中央図書館の連携事業を掲載している。平塚市電子図書館と小・中学校との連携だが、通常電子図書館は利用者登録を必要とするが、登録の有無にかかわらず児童・生徒、教員等に電子図書館のIDを発行し、学校で配付されているタブレットで電子図書館を利用可能としたものである。令和5年度末時点で11,541タイトルの電子図書があり、そのうち275タイトルが何人でも同時に読める読み放題パックの図書である。授業でも活用できるものを用意している。また、東海大学との連携では、TOKAI グローカルフェスタという平塚市だけでなく、秦野市、伊勢原市、中井町などの近隣自治体と一緒に、全世代との交流を目的としたオープンキャンパス型のイベントに参加している。大学の司書課程と一日ミニ図書館（栞づくりやおすすめの本の紹介、読み聞かせ、リサイクル本の配付など）を共同出展した。東海大学に限らず、さまざまな大学の司書課程の学生の受け入れも実施している。関係団体との連携として、NPO 法人ぜんしんと「図書館ボランティア体験（書架整理や本の修繕など）を通した不登校・ひきこもり改善支援」を実施している。また、平和の紙芝居事業では、図書館で実施しているボランティア養成講座から発足した紙芝居の団体である「心をつなぐ紙芝居の会」による提案で以前から図書館で平和の特集展示を行っていたが、平成29年度からは、平和を関連づけた紙芝居のイベントとして団体と協力して実施している。

公共施設との連携としては、図書館・博物館・美術館が連携した3館コラボ事業を実施している。夏休みに共通のテーマを設けて、子ども達を対象としてスタンプラリーをしながら回遊してもらうもので、文化ゾーン3館の来館者増加に繋げていくことを期待して実施している。また、庁内各課とは、それぞれの事業の趣旨や目的に合わせた関連図書の展示事業を行っている。また、一覧表には記載していないが、市内の中学校区に子ども読書活動推進協議会が組織されていて、家庭・地域・学校が連携して事業を展開している。本の読み聞かせや学校図書室の整理、読書週間の事業企画を市からの委託事業として行っている。協議会とは、課題を共有する会議の実施や個々の相談を受けている。また、学校司書や読書活動の推進に携わる方々の研修へ図書館から職員を講師とし

て派遣する取組を実施している。

指定管理者制度を導入している地区図書館では、学校、公民館、子どもの家、子ども読書活動推進協議会などとの連携を図ることを基本方針として掲げて、新たな利用者と図書館を親しむ機会を創出している。

また、その他の取組としては、学校の児童・生徒の図書館見学の受け入れ、職場体験、図書委員会や部活動と連携した事業の実施として読み聞かせやブックトーク、調べものの資料案内、情報支援、学校図書室の蔵書サービス、レイアウト変更の支援などを行っている。

地域連携としては、南図書館では南部福社会館と共催して、シルバー世代でも楽しめる絵本や紙芝居の読み聞かせを実施し、施設の相互利用の促進を図っている。

（２）テーマ協議

○議長

図書館からの説明で疑問に思ったことやもう少し聞いてみたいこと、感想などあれば発言いただきたい。

○委員

図書館の連携事業の説明を聞き、とても色々な取組をしていることを知った。また、この会議前の施設見学では、かつて学生時代に利用していた時の雰囲気とは変わって、若い世代からシニア世代まで幅広い世代が利用している様子を見ることができた。市として施設の活用や利用者のニーズの把握など、さまざまなことをやっていることをもっと利用者増加のために広報活動していければいいと思う。現在行っている連携事業のほかにも見えないニーズがあると思うので、発掘していけるといいのではないかな。

○委員

電子図書館の取組だが、子ども達はどの位、電子図書館を活用しているのか。

○事務局

学校との連携前の電子図書館の利用件数は月約８００件であったのが、学校との連携後には月約６０００件となった。これは子どもも大人も含めた件数で、子どもの利用件数の算出ではないが、これだけ数字が伸びたのは、学校との連携の影響が大きいと思われる。

○委員

学校では、子ども達の図書室の活用状況はどのような状況か。

○委員

各学校で差はあると思うが、私の小学校では授業中での調べものに活用したり、割と活用されている状況ではないかと思う。市内の小学校では比較的多くの学校で図書室の開放はされている状況である。

○委員

中学校では、小学校に比べて利用頻度は低く、学校司書が来る日の昼休みのみ図書室の利用ができ、それ以外は施錠して、利用できない状況である。

○委員

今回、施設の見学をして、改めて中央図書館の施設が古い状況であると感じた。新しければいいということではないが、もっと居場所として充実していけるといいのでは。この文化ゾーンの魅力ある取組をもっと市民に広報して知ってもらえるといいと思う。

○議長

電子図書館と学校との連携の話があったが、実際学校の授業でタブレットを使い、電子図書館を利用しているのか。

○委員

現状、中学校の授業で電子図書館を活用している話は聞かない。

○委員

多くの本は貸出中の本で読むことができないので、みんなで一緒に読むことができる本が増えるといいのではないかという教員の声は聞いている。

○議長

読み放題パックの本はどのようなジャンルが多いのか。

○事務局

基本的に児童書の読み物系が多い。また、すべての本が電子化されているわけではなく、出版社の判断により、電子化は限定的な部分がある。

○議長

もっと読み放題パックの種類が増えたら、同時に閲覧できるので、授業で活用される機会も増えるのではと思う。

○委員

点字コーナーの本はどの程度利用（貸出）されているか。

○事務局

令和５年度は中央図書館で１４９件、地区図書館で各１桁～３０件で合計２０２件、貸出をしている状況である。

○副議長

中央図書館には、高校生の時に利用したり、子どもが小さい時に映画会などで来たりすることはあったが、それ以降は必要な本は購入したり、調べものは大学の図書館を利用したりしていて、久しぶりに来館した。色々な年代のニーズに対応できるような図書館であってほしいと思う。今度の大規模改修を機にさらに利用しやすい図書館になるといいと思う。

○委員

こんなに多くの連携した事業があるということを今回初めて知った。おそらく私が所属している自治会連合会のメンバーも知らないのではと思う。図書館の事業と地域を関連させると難しいものになってしまう。まずはどのような事業があるのか知って、活用方法等を考えていきたいと思う。

○議長

図書館ではさまざまな事業やサービスなどがあるが、もっと広く知ってもらえると図書館を活用しようという人が増えるのではないかと感じる。

○委員

図書館の活用の観点から、図書館が課題と考えていることは何か。また、この会議では事業の参加率やニーズに課題があるという話が出ているが、図書館の認識はどうか。

最後にこの年間の事業はどのようなプロセスで事業計画を立てているか。

○事務局

図書館の課題としては、資料の充実もあるが、多様化している市民のニーズを考えると居場所としての充実が課題であると考えている。

夏休みには子ども達向けに宿題の参考図書を紹介する事業を実施しており、参加者は多くない状況がある。参加者が増えるよう事業のＰＲを工夫するなどして取り組んでいきたいと考えている。

事業の計画は、大きな予算が伴うものと職員で対応することで比較的予算の掛からないものもある。予算の伴うものについては、前年度の早い時期から準備を進め、計画を立て

るようにしている。職員で対応できるような事業は、その時々の方々のニーズに合わせて、事業の立案をしている。

○議長

中央図書館の事業は市職員が企画しているのか。

○事務局

中央図書館の事業は市職員が企画している。地区図書館については、指定管理者と情報を共有しながら、進めている。

○委員

連携事業一覧にある子育てサロンは、豊田公民館1館のみの実施なのか。

○事務局

資料の記載が誤っており、正しくは連携団体等がとよだ子育てサロン、会場が豊田公民館である。

○委員

ブックスタートはとても素晴らしい取組であると感じている。市民に図書館や本を身近なものと感じる取組をしていてもらいたいと思う。

また、図書館を利用して感じる事としては、特にCD・DVDなどは古い作品が多く、最近の作品が少ない状況を感じる。適宜刷新してもらえるといいと思う。

今後、中央図書館の大規模改修が予定されていると思うが、その改修期間に市民の図書館離れが進まないような取組をしてもらえるといいのでは。

○議長

出前図書館のシステムとどのような団体が利用しているのかを教えてください。

○事務局

出前図書館は学童の利用が多い状況である。出前図書館は団体からオーダーを受けてあおぞら号で（団体が活動する）施設等へ行って貸出をするものである。

○議長

このような団体向けの図書館サービスを知らない団体は多いのではないかと。
地域の団体が地区図書館に企画を持ち込んだ時の対応はどうなっているか。

○事務局

指定管理者とは細かな規定はないが、内容を伺って、個別に判断することになると思う。

○委員

地区図書館は指定管理者制度になることでもっと様々なことができ、便利になると思ったが、そうではないように感じる。西図書館の近くにある公園を使ってカフェのようにできないか提案したが、断られてしまった。

○議長

市民や地域団体からの連携や提案事業は、市の計画に合致したものであれば、実現しやすいことがあるかもしれないが、そうでないと難しいことがあるかもしれない。

○副議長

市民は図書館に希望などをどんどん言ったらいいと思う。実現できるかは図書館が個々に判断することかと思う。

○事務局

公園を使用するには、公園の使用許可等が必要になるかと思う。

○副議長

市民のニーズや課題を聞く場として、図書館は最適だと感じている。図書館のレファレンスサービスがどれだけ開かれているかが大切だと思う。中央図書館のレファレンスサービスは委託か。

○事務局

各階で対応しているが、3階は主に市職員が対応している。

○副議長

図書館のレファレンスサービスは、資料を案内するだけの閉じたものにするのか、逆に（資料の案内だけでなく）何か別の提案をしてあげられるかでだいぶ違うものだと思う。中央図書館の現状はどうか。

○事務局

現状でもお答えできる範囲で対応している。委託している職員がすぐに対応できない場合は、市職員が調べて対応している。

○副議長

来館している利用者が図書館職員に何でも聞いてもよい雰囲気が大事だと思う。なかなか聞きにくい状況があるのでは。このあたりを考慮して、改装後、より良くなるといいと思う。

○委員

ライフステージによって図書館の利用の仕方が変わると思う。博物館や美術館もそうかもしれない。市民が聞きやすい、相談しやすい雰囲気は大切だと思う。市広報などを通じて発信してもよいだろう。相談を受けてもらえる場所があると安心感だったり、温かさを感じたりする。

○議長

中央図書館の1階ロビーは以前に比べてとても明るくなり、良くなったと感じる。図書館は単なる居場所だけではダメだと思う。

調べもの等で困った人が図書館に行けば、解決の糸口が見つかる場所になっていかないといけない。

○事務局

調べもの等で困った方が解決の糸口を見つけられるような施設もそうだが、話し掛けやすい雰囲気づくりや利用しやすい施設のレイアウトなどを考えていきたいと考えている。

○議長

現在の図書館サービスでも地域の団体に浸透していない状況があるのではないかと思う。浸透が進めば、地域でもさまざまな図書館の活用方法が新しく出てくるかもしれない。

○委員

小学校でも教員等に電子図書館の感想や情報交換をしていけたらと思う。

○議長

学校のニーズを図書館に提案してもいいかもしれない。

○委員

子ども達の発表の場には、保護者はとてもよく足を運んでくれる。図書館でも子どもを巻き込んだイベントを実施するといいのではと感じる。例えばPOPを作って展示するとか、ビブリオバトルを実施するなど子ども達が表現できる場があるといいかもしれない。

○議長

地域の団体が学習会を企画した時に、遠慮もあるかもしれないが、図書館や博物館などと連携する発想に至らないことが多いのではと思う。平塚市には素晴らしい社会教育資源があるので、もっと活用できるようになれば魅力あるものになるのではと思う。

今後の会議でも、社会教育資源の活用の観点からさまざまな意見交換ができればと考えている。

○委員

レファレンスサービスについて、今回初めて知ったが、図書館が多機能化していくにあたって、とても可能性を感じた。民間企業では、社員サポートセンターというさまざまな総務的なサービスを提供してくれるものがあったりする。

このような相談窓口を設ければ、足を運んでくれる市民や声を掛ける市民が増えるのではと感じた。

○議長

図書館では、本の場所を聞いたりすることはあっても、さらに突っ込んだことは聞きにくい人が多いのではないかな。

○委員

さまざまな社会教育施設で子どもが活躍する場を作っていけると保護者が集まってくれたり、後々、子ども達にとって忘れられない思い出になったりするかもしれないと感じる。

○議長

図書館では、子どもの体験型の事業としては、一日図書館員があるが、保護者が集まるようなものではない。

○事務局

一日図書館員を各館で2学年毎に分けて図書館の業務を体験している。そこには保護者が見学や付き添いに来ている様子も伺える。

(3) 次回の会議予定の確認

第4回会議日程 令和7年1月21日(火) 14時45分から(会場は博物館)

(4) その他

事務局から県社教連の研修会のオンデマンド配信の案内と今後の地区研究会(海老名市、大磯町)の案内をした。

以 上